２．山形市の都市計画に関する資料

見学会 2013 年 10 月 26 日の資料作成：小林敬一

他は以下の報告書より抜粋

- 山形市都市景観計画策定基礎調査報告書Ⅰ　都市景観ガイドプラン素案・資料編 A,B：1993 年度：山形市・東北芸術工科大学

- 山形市都市景観計画策定基礎調査報告書Ⅲ　都市景観ガイドプラン素案・資料 D：1993 年度：山形市・東北芸術工科大学

山形市中心市街地見学会 2013 年 10 月 26 日　見学ルートと資料記号（以下 2 ページの資料を参照）

本都市計画学会・東北支部
13.10.26 小林敬一

山形市中心市街地見学会・資料

1. 集合場所:大学コンソーシアムやまがた ーゆうキャンパス・ステーション

・大学コンソーシアムやまがたとは、「平成 16 年 4 月に設立された、山形県内の大学・短期大学・高等専門学校・放送大学等の教育機関と山形県の連合組織」(ホームページより)

ⓐ 山形駅・複合ビル

・山形新幹線開通(1992 年)に合わせて駅舎・複合ビル(1993 年)も整備された。
・駅前のデッキは 2002 年に整備された。しかし、向かい側の角地はビブレが撤退した後、空地のままとなっており、地権者の間でその活用が課題となっている。
・現在、駅前広場・歩道部分に無散水消雪システムを整備中。

ⓑ 山交ビル・バスターミナル

・都市計画決定の後、昭和 46 年(1971)に整備されたもの。
・現在は、高速バス(山形ー仙台間)の発着が多くなっている。(現在、平日で 76 往復)

2. 山形城跡・三の丸土塁跡

・本丸・二の丸部分は「山形城跡」として昭和 61 年(1986)に史跡指定された。この三の丸跡は昭和 62 年に追加された。
・明治になり、堀・土塁が取り払われ、鉄道が通り、三の丸の内側が市街化する。江戸後期、山形には小大名が封じられたことから、広大な三の丸内は、かなりの部分、農地となっていたと見られている。その当時に形成されていた道に従ってその後の市街化が進み、計画的な市街地形成はなされなかった。

3. D'グラフォート十日町タワー

・85.2m(塔屋を含む)、23 階、2006 年竣工
・延床面積 18,295.65 ㎡、敷地面積 2495.88 ㎡、現在 126 戸入居。
・山形市で最初の超高層マンション。それまで、山形市にあった 60m 以上の超高層建築は、山形県庁舎(74.8m、1975 年)、霞城セントラル(114.6m、2000 年)と、いずれも公共サイドの建設による。

・商業地域 600%。建築基準法 52 条第 5 項の改正(共同住宅の供用部分の算入除外)や同第 56 条 7 項の天空率規制などによって、この容積率内で可能に。
・商業を併設しており、優良建築物等整備事業(市街地住宅供給型)が適用されている。
・2010 年に山形市は高度地区指定を行うが、商業地域のうち容積率 600%、500%部分については制限を設けていない。

4. 自転車レーン:ほっとなる通り「人に優しい街づくり」社会実験

・自転車通行環境整備モデル地区に指定され(2008 年)、翌年 11 月から国土交通省山形河川国道事務所、山形県警察本部、地元3商店街が主体となって1年間の社会実験を行った。ほっとなる通り約 1kmの東側に幅 2.5m の自転車道を整備し、あわせて信号機の改良などを行った。
・その結果、種々の問題が明らかになったことから、検討会や市民意見交換会、アンケートなどを重ね、2012 年 12 月に現在のような形に暫定施工を行なった。車道の両側に自転車道を設けた他、自転車レーンの舗装色の変更、自転車道ー歩道間の段差のセミフラット化、カットバック(1.5m 幅)の設置などの改良を加えている。2015 年度に本施工の予定。

社会実験

暫定施工

5. 蔵オビハチ

・敷地の奥にあった蔵が、土地区画整理事業によって道路沿いになり、修復・活用して喫茶店としたもの。
・この蔵の修復・再生は、東北芸術工科大学の「蔵プロジェクト実行委員会」が行った「ヤマガタ蔵プロジェクト」の最初の実践(2003 年)。その後も、同プロジェクトは、「ギャラリー絵遊」の新築、「ダイマス」の改修、「旧木村邸」の活用などを行っている。
・蔵オビハチは 2003 年、山形市まちなみデザイン賞を受賞。

ⓒ 諏訪神社のケヤキ保存

・諏訪神社の参道にあったケヤキの大木で、平成 6 年(1994)の都市景観ガイドプランで「山形うるおい100景」の一つに選定された。
・1995 年に都市計画決定の変更により線形を変更し拡幅した。(さらに 1999 年にも再度変更)
・結局、当初幅員 27m の計画を 29.15m とし、保全を図った。

ⓓ 料亭「嘯月」

・前面道路の拡幅があったが、なお料亭の風格を伝える。
・山形の老舗料亭というと、「嘯月」の他に、「四山楼」「亀松閣」「のゝ村」「千歳館」「あげつま」が挙げられる。

6. 山形まるごと館 紅の蔵

・1996 年、ここにあった丸谷商店や近江屋の店蔵は、野村屋さんの店蔵とともに、山形市まちなみデザイン賞を受賞している。
・山形市中心市街地活性化基本計画(2008)で、三つの新名所(拠点)づくりの一つに位置づけられた。
・土地区画整理事業にかかり、敷地内にあった7棟の蔵のうち5棟が残った。それらを整備して、山形まるごと館・紅の蔵として平成 21 年(2009)12 月 6 日にオープンした。管理運営は、中心市街地整備推進機構に指定した一般財団法人山形市都市振興公社に委託している。山形市都市振興公社は家主から土地、建物、駐車場を賃借し、プロポーザル方式により選定した事業者に再委託している。
・整備事業費は約 6,300 万円。市からの運営経費助成もなされているが、2012 年度の売上高は 4.9 億円、利用客数39 万人となっている。
・直売所部分は、県の補助を得てJAやまがた(山形農業協同組合)が整備し(4400 万)、2010 年 7 月にオープンしたもの。駐車スペースは 55 台。

ⓔ 鍵型跡

・道路パターンに横町搦手口(横町口)の鍵型跡が残る。

7. 西村写真館

・和洋折衷様式の建物。それまでの旅館業をやめ、写真館として大正 10 年(1921)竣工。設計者は小林太吉と伝えられているという。1995 年に廃業。『山形県の近代化遺産』、宮本長二郎、より

8. 山形まなび館(第一小学校跡)

・昭和 2 年(1927)に建設されたもので、県下初の RC 造の学校建築。竣工してまもなく、山形市主催の全国産業博覧会(1927)の第一会場として使用された。
・設計は秦賢雄と伊藤高蔵がつくった秦・伊藤建築事務所。なお秦賢雄は佐野利器の妻の長兄。

・2001 年 11月 に登録有形文化財となっている。2008 年-2009 年度に耐震補強と1階・地下部分の内装を改修し、2010 年 4 月に山形まなび館として開館した。山形を学ぶ文化観光施設という意味である。
・市が第一小学校からこの部分を借り、民間に運営委託している。所管は観光部商工課。
・委託先はプロポーザル方式で選考し、2003 年度から㈱山形まちづくりサポートセンターと㈱リノベーション山形の共同企業体が受託している。
・建物はまだ 1 階と地下部分のみ改装して使っている。交流ルームの貸館とイベント開催、それに観光交流ルームにおけるカフェなどの事業と物販を行っている。

ⓕ 「八文字屋」

・本屋。少なくとも 20 年前は文化的な拠点として重要な場所であり、空間的にも先進性を感じさせるものであった(個人的所感)。
・設計は本間利雄、1968 年。45 歳の時の作品。

9. 一番通り景観整備事業

・1993 年度に街路景観整備事業のⅠ期工事(L=360m)をし、2000 年-2002 年度にかけてさらに東側(L=453m)の舗装改良を行ったもの。Ⅰ期工事部分の歩道は無散水消雪となっている。
・この道の先は笹谷街道となる。山形大学と七日町をつなぐルートとなっている。
・整備後、喫茶店の出店があったり、近年は蔵を使った店ができるなどの変化もあった。

10. 市島鉄砲火薬店

・山形市の初代消防長となった市嶋虎吉が昭和 2 年に建てたものとされる。
・「市島鉄砲火薬店は、江戸時代から同所で火薬を商っていたことが、幕末～明治頃の古地図から窺える」という。『山形県の近代化遺産』、宮本長二郎、より
・2001 年 11 月 20 日に登録有形文化財になった。2003 年に屋根を改修し、2009 年には窓枠サッシを変えている。
・2003 年に山形市まちなみデザイン賞を受賞。

11. 明善寺

・浄土真宗本願寺派の寺
・本堂は伊東忠太の設計。向かって左に鐘楼、右に太鼓楼を配置する。
・2002 年 6 月、本堂部分が登録有形文化財に登録。

g 専称寺と寺町

・専称寺を中心に集まっている寺院群は真宗大谷派の塔頭である。他にも、この辺りには寺社が多く、城下町の東縁部を形作るものであり、寺町と呼んでいる。
・専称寺は最上義光が娘駒姫の菩提寺として移建したもの。
・シェイプアップ・マイタウン計画では、寺町と霞城公園を結ぶ軸を「歴史・文化軸」とした。
・「歴史・文化軸」を具現化するとともに、都市計画道路の計画と地区の風致の保全との調整という課題がある。

h 料亭「四山楼」

・「四山楼」は明治 12 年(1879)、当時内務卿だった伊藤博文の命名と伝えられる。建物は明治 44 年の市北大火で蔵座敷を残して焼失し、半年後に母屋を再建したとある。
(山形歴史たてもの研究会ホームページ http://www.retorokan.org/contents/history20120311.htm より)

i シネマ旭と旭銀座・シネマ通り

・この角にこの春までシネマ旭の建物があった(写真:GoogleMapストリートビュー参照)。2007 年に閉館し、惜しまれながらも、この 8 月から解体工事に入っている。
(http://www.yamacomi.com/3977.html より)
・昭和前期には、この界隈には「旭座」をはじめ「大映」、「演芸館(のちの「銀映」)、「霞城館」(のちのミューズ)、「紅花劇場」などがあったという。
(http://www.yamacomi.com/4002.html より)
・1994 年に街路景観整備事業を行っている。

j 千歳館／紅花通り

・2002 年 6 月に登録有形文化財に登録された。
・創業は明治 9 年(1876)。登録された主屋は大正期のもの。客室「つる」「ちとせ」は昭和前期。
・ちなみに、この通りをかつては「紅花通り(こうかどおり)」と呼んだ。通りには、料亭「のゝ村」、鰻の白焼きで有名な「染太鰻店」、山形牛のしゃぶしゃぶで有名な「金檜屋牛肉店」などが並ぶ。
・都市計画道路(飯塚町七日町線)の計画があり(拡幅)、笹谷街道との交差点以南部分では、現在整備事業が進んでいる。

k 長源寺通り

・1997 年から 2000 年に街路景観整備事業を行った。

12. ほっとなる広場(土地区画整理事業)

・土地区画整理事業で生み出された広場公園。面積 545 ㎡
・2003 年 12 月オープン。
・管理は七日町商店街が行っており、そこで承諾を得た後に公園緑地課で使用許可を得る。
・現在、フリーマーケット、ライブダンス、物販などのイベン利用が年 30～40 件ほどある。

l シティタワー山形七日町マンション

・65.35m(塔屋を含む。除くと 59.95m)、20 階、2012 年竣工
・延床面積 13,075.70 ㎡、敷地面積 1650.15 ㎡、130 戸入居予定。
・60～70 ㎡の 2LDK が中心となっている。
・優良建築物等整備事業(市街地住宅供給型)が適用されている。

13. 済生館病院の建替えならびに親水空間整備

・佐藤伊兵衛、長谷川吉郎治らが天童に創設した病院を、明治 7 年、三島通庸が公立病院としてここに移したもの。当時は医学校も併設していた。明治 12 年に三層楼ができる。同年 2 月に県立とし、名称も山形済生館となった。
・この旧済生館本館三層楼は、1966 年重要文化財に指定され、現在霞城公園に移築保存されている。
・明治 37 年に市立病院に。
・1989 年から改築に着工し、1994 年に完了。延床面積 43,474.34 ㎡。
・敷地北側には親水空間が整備されている。四阿からの軸線は、かつての三の丸の大手口に重なる。

14. 水の町屋七日町御殿堰＋御殿堰整備事業

・堰を中心とする公共空間の整備と民間の投資とを併せて実現した事業。以前は、水路は暗渠となっており、路地の奥に映画館があった。
・水の町屋七日町御殿堰は、2010 年 4 月 28 日オープン。事業主体は七日町御殿堰開発株式会社。事業費は約 3 億円。経産省の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金の助成を受けている。

・一方、御殿堰は、それまで暗渠だった堰を整備し表に出し、両側に歩道をつけた。事業費約 1.5 億円。
・「笹堰(総延長 47.5km)」「御殿堰(17.5km)」「八ヶ郷堰(16km)」「宮町堰(15km)」「双月堰(19km)」を山形五堰という。中でも城の堀に水を入れるのがこの御殿堰である。

m 七日町二郵便局

・1998 年山形市まちなみデザイン賞受賞。
・大正 14 年(1925)の建築。伊藤高蔵の設計。当時は洋品店として建てられたもので、1972 年に郵便局に改装されたという(ホームページ http://blog.goo.ne.jp/es_februaryfe/ad0dcc740173da4b23d4c0f3bb0b7406 より)

n 山形市役所

・現在の庁舎は四代目となる。1984 年に竣工。
・延床面積 31,460.91 ㎡、高さ 57.197m

15. 文翔館の眺望景とマンション問題

・1999 年、文翔館の背後にマンション建設計画(14F, 47m)が持ち上がる。文翔館の眺望景を損ねかねないと危惧された。以後、地権者、建設業者との協議の結果、高さを 10 階 30m に抑え、上層階の色彩も目立たないものとすることとなった。
・15 を視点場とすると、背後に建ったマンションは文翔館の屋根に隠される。
・同年 12 月に「文翔館周辺まちづくり協定」を締結。ただし、この協定では、高さは文翔館の軒の高さを目途とすることとなっており、当初あったフェゾー規制の趣旨は反映されていない点が惜しまれる。

16. 文翔館

・明治 44 年(1911)の市北大火によって明治 10 年(1877)建築の県庁舎が焼失し、建替えられたもの。大正 5 年(1916)竣工。設計は、田原新之助。米沢市出身の中條精一郎が顧問を勤めた。(県のホームページ http://www.pref.yamagata.jp/ou/shokokanko/110001/him/him_24.html より)
・昭和 50 年(1975)に県庁が現在地に移転。
・昭和 59 年(1984)国の重要文化財に指定され、以後修復を行い、平成 7 年(1995)「文翔館」として公開。

o 洗心庵

・旧服部邸庭園。寄贈を受けて、県が緑町庭園文化学習施設として整備し、2013 年 7 月 16 日にオープンしたもの。
・造園家岩城亘太郎が手がけた。

17. 国道 112 号線の拡幅(霞城改良)と霞城改良地区まちづくり協定

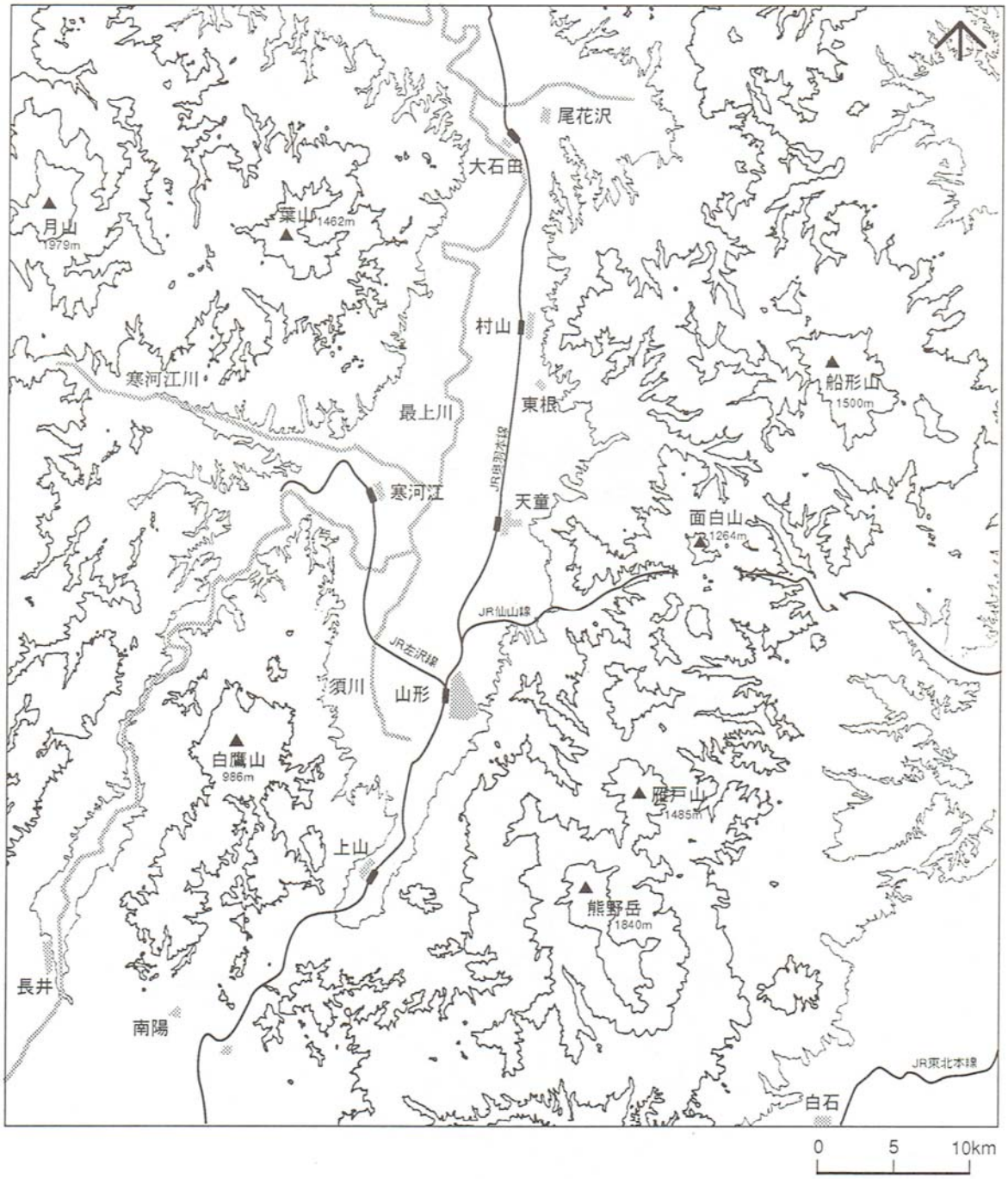
・霞城改良は L=1300m、W=30-31m の計画
・植樹帯がなく、中央分離帯もポストコーンであることなど、うるおいに欠けるのではと危惧している(個人的所見)。
・沿道では建造物のデザイン調整の為、景観形成基準を設け、事前審査を義務付けた霞城改良地区まちづくり協定を締結(2006 年 3 月 6 日施行)している。
・ちなみに、この角に立つ建物は、山形メディアタワーと称し、山形新聞・山形放送本社ビルである。2007 年グランドオープン。

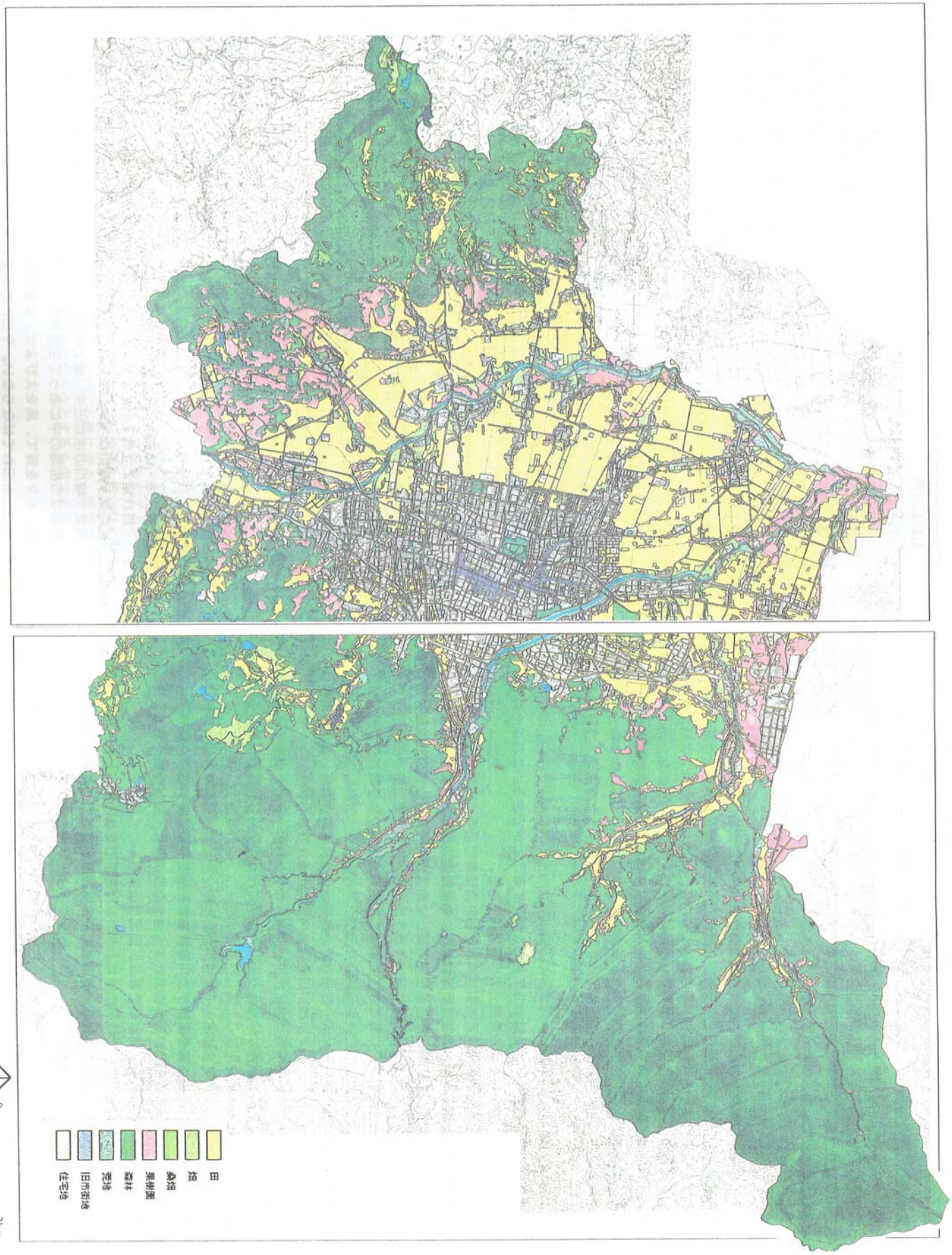
18. 丸八やたら漬け本店・香味庵

・1998 年山形まちなみデザイン賞受賞
・2007 年 12 月に本店店舗兼主屋、座敷蔵、ならびに香味庵蔵が登録有形文化財に登録される。
・前面道路の拡幅(霞城改良)により、主屋正面が 6m ほど削られることになり、ファサードを下げて保存した。その際意見もあり、金属サッシだった扉を木製に替えている。

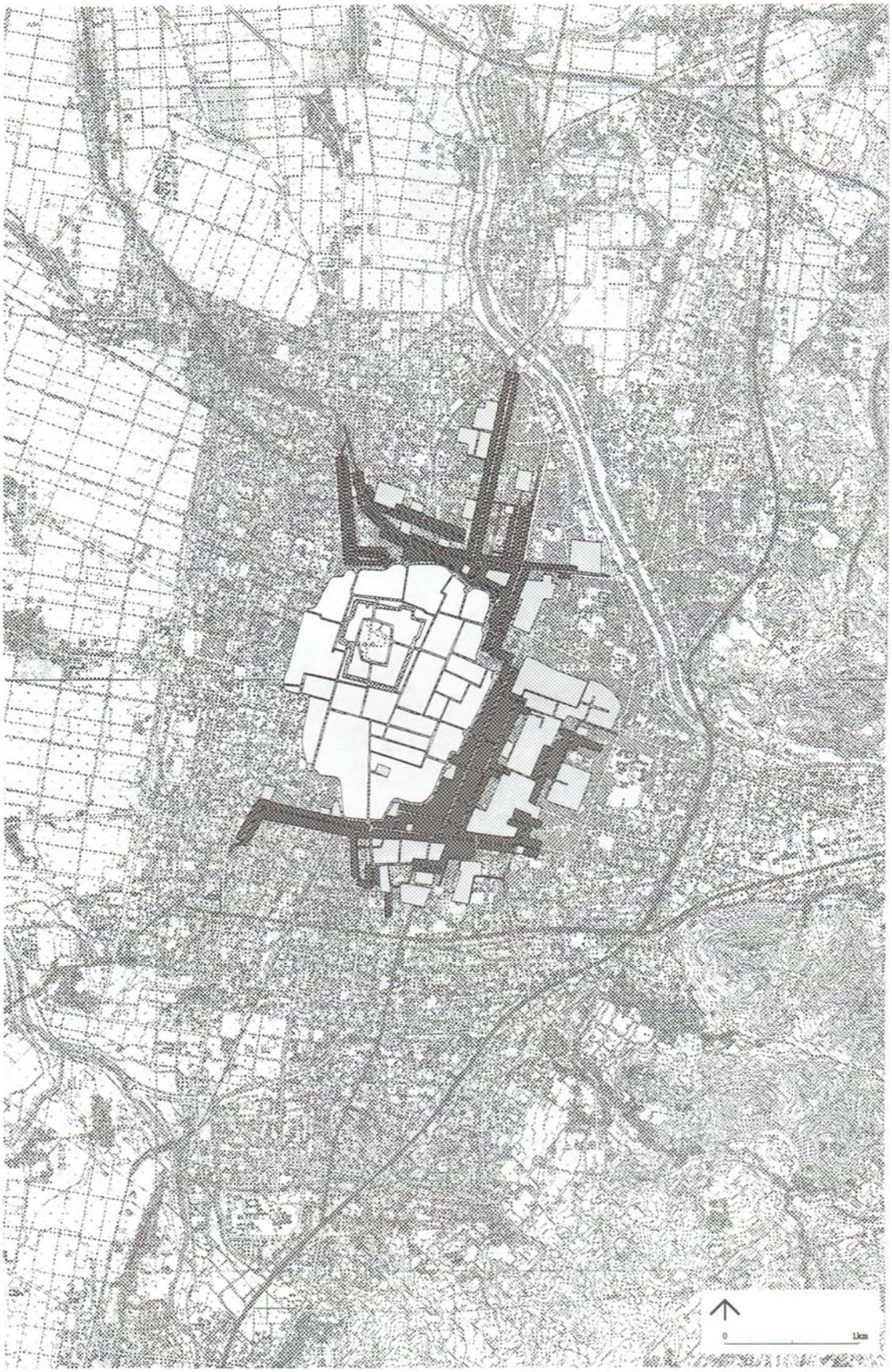
1. 自然基盤

1.1 山形盆地周辺の地勢





山形市都市景観計画策定基礎調査報告書Ⅰ　p8，9

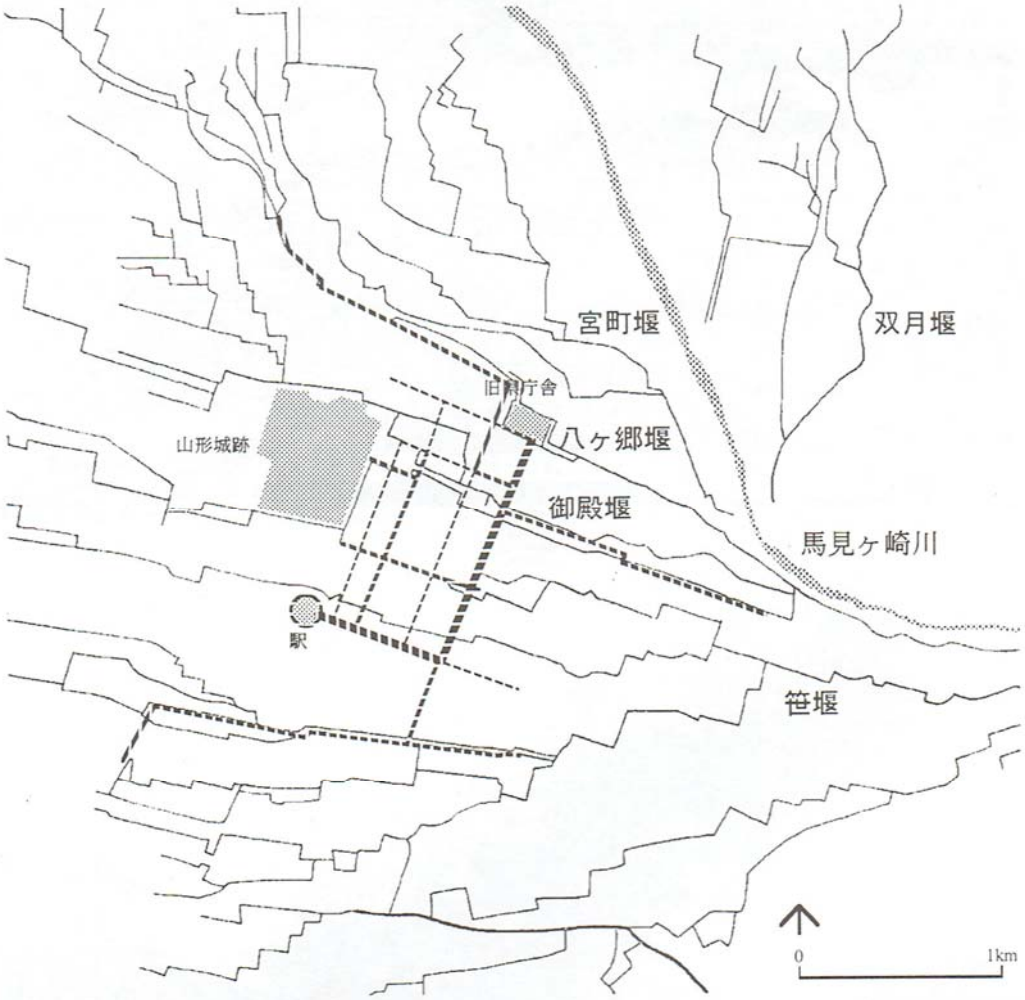


武家地　町人地　寺社地

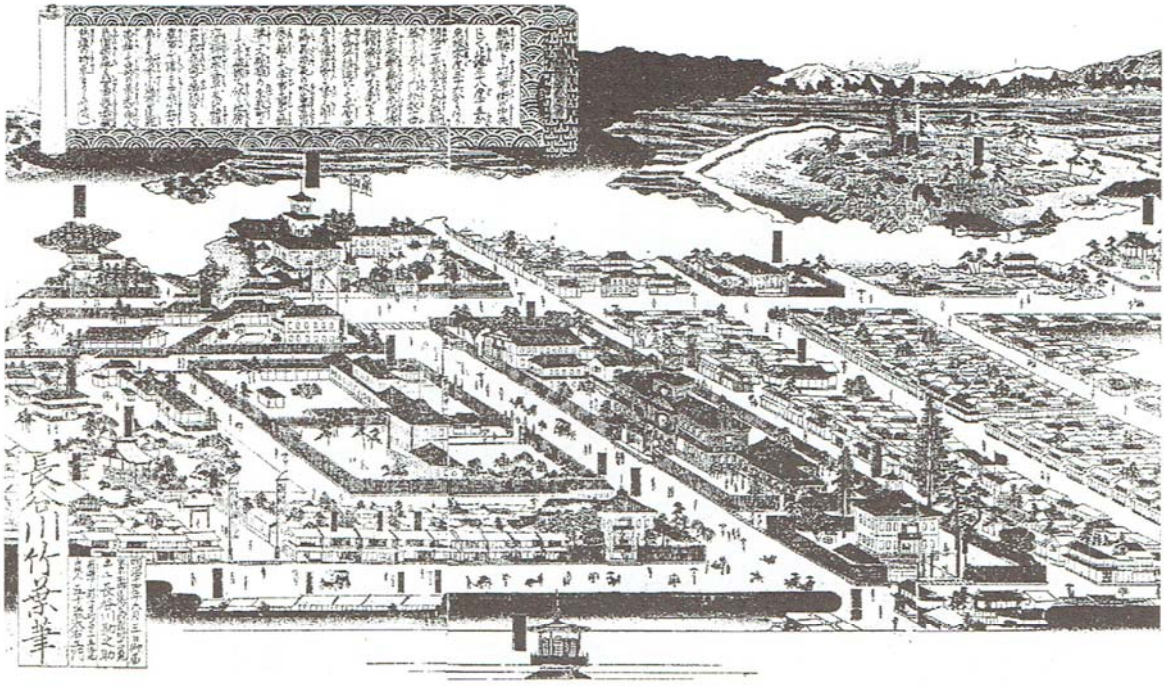
城下町の構成は水野時代のもので、高橋信敬氏の復原推定作図による。

図1 山形の市街地と城下町

3.4 堰の流路網



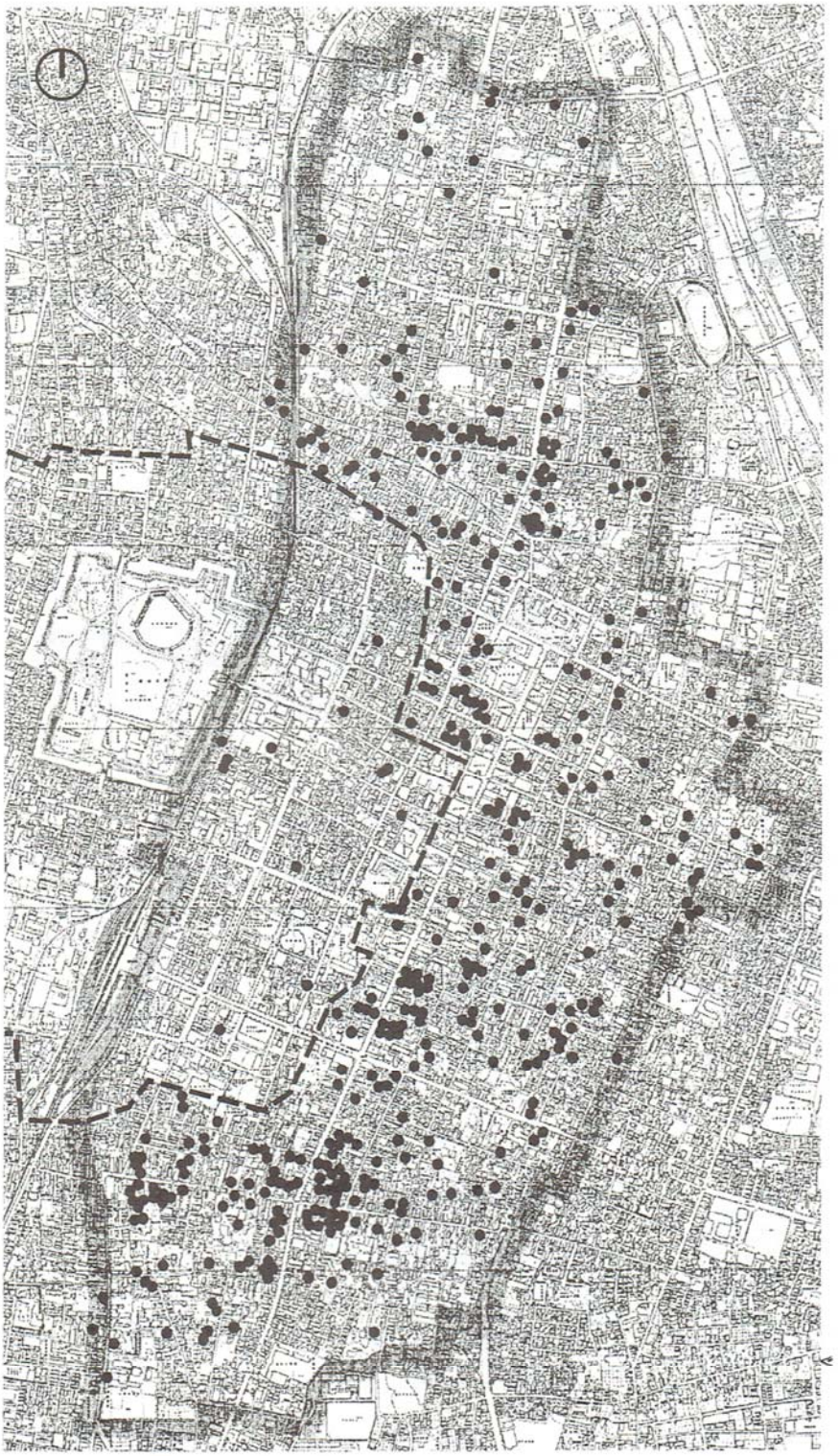
3.5 明治の山形



「山形懸新築之図」部分

明治初期の山形中心部、高橋由一画

3.6 蔵の分布



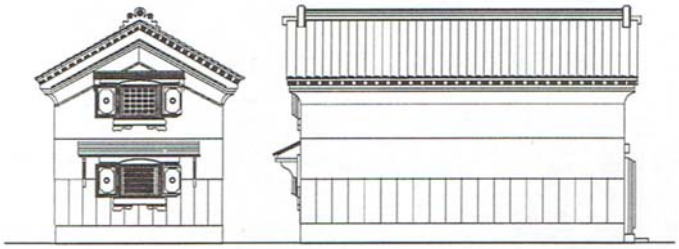
● 蔵

- - - 三の丸跡（推定を含む）

0 500m

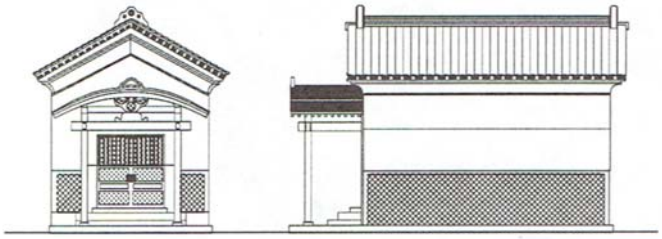
山形市都市景観計画策定基礎調査報告書Ⅰ　p91　　作成：杉山岳巳

3.7 蔵の種類

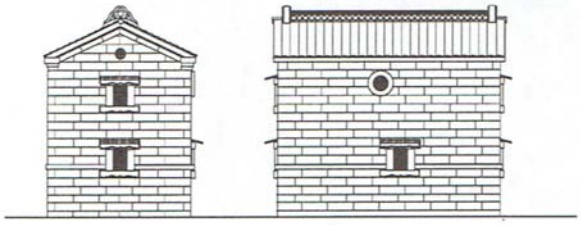


一般蔵　375棟

店蔵　6棟



仏蔵　20棟



石蔵　22棟